

II-58 砂質地盤における波浪時地中間隙水圧の測定

新日本製鉄(株) 正会員 長谷川幸也

高波浪時の海底砂質地盤内の間隙水圧の変動を測定した。波浪による砂地盤の液状化の可能性を考察する上で有効なデータと思われるので報告する。測定は、福井県福井市臨海工業地帯内福井石油備蓄基地受払施設海底配管取付部のシールドトンネルを利用しておこなった。

海底土の粒度分布は図-2のとおりである。N値は表層の6~7mが0~50、それ以深は50以上である。

使用した水圧計の仕様は下記のとおりである。

- 型式 PAS-2P (坂田電機製)
- 変換方式 定電流差動トランス
- 測定範囲 3 kgf/cm<sup>2</sup>
- 非直線性 0.5% FS

図-4は、昭和60年2月21日の実測データの一部である。なお、運輸省才一港湾建設局敦賀工事事務所の観測データによれば、このときの最大波高は10.5mであった。(測定水深22m)

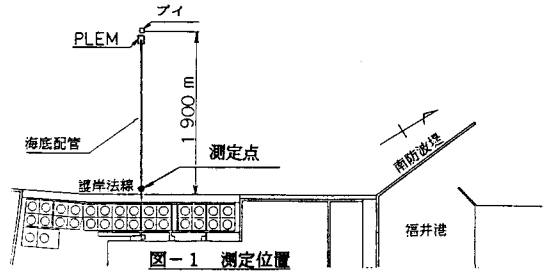


図-1 測定位置

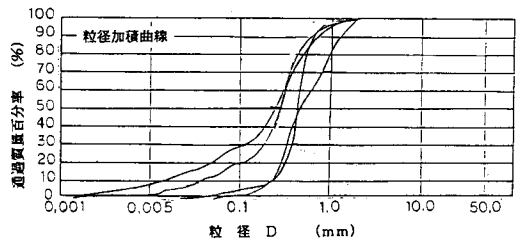


図-2 粒径加積曲線

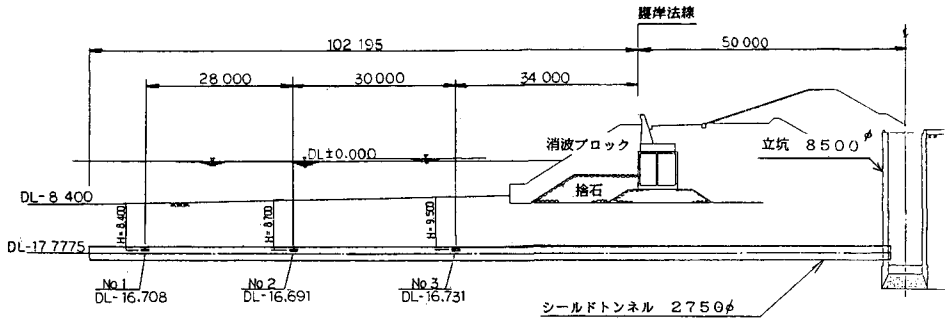


図-3 間隙水圧計設置位置図



図-4 間隙水圧測定結果